

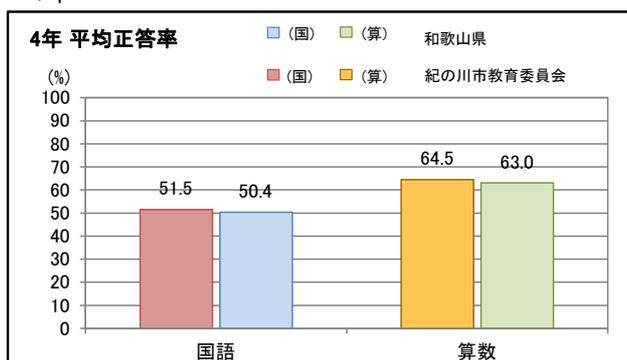
○教科別平均正答率と無解答率

	4年				5年					
	平均正答率 (%)		無解答率 (%)		平均正答率 (%)			無解答率 (%)		
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	理科	国語	算数	理科
紀の川市	51.5	64.5	5.9	1.4	65.8	61.0	53.0	2.3	2.0	1.6
和歌山県	50.4	63.0	8.9	2.2	65.1	62.5	53.8	3.5	2.9	2.4
県比	1.1	1.5	-3.0	-0.8	0.7	-1.5	-0.8	-1.2	-0.9	-0.8

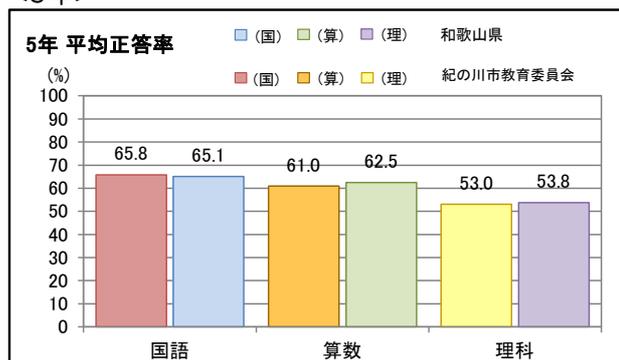
※正答率が県平均を下回る箇所は、朱書きしています。

○平均正答率と解答状況

<4年>



<5年>



○調査結果より

<4年生>国語、算数共に県平均正答率を上回り、概ね学習内容が定着しているといえる。

- (国語)・漢字の読み、修飾と被修飾の関係の理解については県平均を5ポイント以上上回っている。ほとんどの問題で正答率は県と同程度であったが、レポートを読んで分かったことや感想をまとめて書く問題、司会の役割を理解し、話し合いの進め方を確認する問題においては、他の問題と比較して正答率が低かったため、今後の課題であるとする。
- (算数)・分数の引き算、億の単位を使った数の大きさ、式から場面の意味を読み取る問題においては、県平均を5ポイント以上上回っていた。全ての問題で県平均と同程度であるが、分数の意味の理解や小数を日常生活の場面に生かすという点で課題が残る。

<5年生>県平均を上回る、または同程度の正答率であり、概ね学習内容は定着しているといえる。

- (国語)・全ての問題で県平均と同程度の結果であった。説明的文章で事実と意見などの関係から要旨を把握する問題、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える問題については、他の問題と比較して正答率が低いため、今後の学習内容に反映させていきたい。
- (算数)・ほとんどの問題において県平均と同程度であったが、あまりのある小数の割り算、データを2つの観点から分類整理する問題は県平均を5ポイント以上上回っていた。また、4年生の時と同様に、データの活用、図形の問題には課題が残されている。
- (理科)・乾電池の数やつなぎ方でモーターの回り方が変化すること、つなぎ方の名称を問う問題については、県平均を7ポイント上回っている。しかし、夏に観察できる1等星の名称についての理解は、6.8ポイント下回っていた。「粒子」に関する問題は全体的に正答率が低く、課題であるとする。

○今後の取り組み

全体的に平均正答率が県平均を上回るか同程度の問題が多く、児童が力を付けてきていることが分かります。授業については、児童が主体的に学べるような課題やめあての設定、ペアやグループ活動で対話しながら学べるような場面設定などが積極的に取り入れられ、児童が「何ができるようにするか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を意識した授業づくりが進んできました。さらに、タブレット端末については、友達との対話や、考えを共有する時、思考を整理する時などに活用され、授業での活用が定着してきました。

しかし、ペアやグループで学習する目的やこの時間に何を学ぶのかを児童に示し、常にゴールを意識して学習活動に臨めるようにすることが重要です。教師が、児童一人一人の実態や理解の過程を十分に把握し、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて授業研究に取り組んでいきたいと考えます。

子供達の学習内容の定着を図るためには、家庭学習は欠かせません。保護者の皆様には、端末を活用した宿題や予習復習などに取り組むための環境整備と学年×10分+10分を目安として家庭学習の時間確保へのご協力をお願いします。